



第14回目

【ペットフードについて ②】

おうちの子に与える大事なごはん、皆さんはどのような基準で選んでいますか。

味、メーカー、使っている材料、我が子の病気に合わせたもの、フードを選ぶには様々な要素がありますね。原材料などの表示も気に見られるのではないのでしょうか。

最近では、“添加物”や“成分”というところを気にされる方も多いようです。

そこで、今回はペットフードのパッケージに記載されている**添加物**に注目してお話します。

ちなみに、パッケージにはその他に
 どんなことが書かれているのか、見てみましょう。



原材料

ペットフードは使用した材料、
 添加物等すべて記載しなければ
 なりません
 使用した量の多いものから順に
 載っています

給与量

愛犬の体重	1日の給与量(目安)
1~3kg	22~50g分
3~5kg	50~74g分
5~10kg	74~125g分
10~15kg	125~165g分
15~20kg	165~210g分
20~30kg	210~280g分
30~50kg	280~410g分

名称

総合栄養食などの目的
 や犬用、猫用かが分かる
 ようにしなければ
 なりません

粗たん白質...26.5%以上
 粗脂肪...9.5%以上
 粗繊維...1.8%以下
 粗灰分...4.0%以下
 水分...6.0%以下
 代謝エネルギー (ME)
 ...356Kcal/100g

成分

記載のあるこの五大成
 分の表示は必ずなくて
 はなりません

賞味期限

原産国

販売者 (製造者)

カロリー

このようにたくさんの情報が記載されています。



みんな気になる？ 添加物！



ペットフードでは、

- フードの品質を守るため
- おいしさ、見た目、香りなど嗜好性を良くするため
- 栄養バランスを調整するため

添加物が使用されます

フードの種類別に使われることの多い添加物を見てみましょう。

ドライフード



長期間の保存で栄養素が低下したり、風味が落ちてしまうのを防止する



酸化防止剤

豆知識: ビタミンC・Eは抗酸化作用があるので酸化防止剤として使われることも多い

セミモイスト・ソフトドライフード



独特の触感を維持する
菌の繁殖を防ぐ



保湿剤
保存料、防カビ剤

ウェットフード



見た目をよくする
やわらかな触感を作る



発色剤
増粘安定剤



このように品質を守るため、必要な添加物があります。

フードの形状によっては使用される種類が増える場合もありますが、日本では使用基準が作られ、限量や使用方法が定められています。

添加物にはメリットとデメリットありますので、自分の目で見、納得したものを選んで頂きたいと思います。
是非スタッフにもご相談くださいね。

次回のペットフードについての回は、フードの“成分”について少し詳しくお話したいと思います。